

令和八年度

神奈川県公立高等学校入学者選抜学力検査問題

共通選抜 全日制の課程（追検査）

## Ⅱ 国 語

### 注 意 事 項

- 1 開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 2 問題は **問五** までであり、1 ページから14 ページに印刷されています。
- 3 解答用紙の決められた欄に解答しなさい。
- 4 文字や数字などを記述して解答する場合は、解答欄からはみ出さないように、はつきり書き入れなさい。
- 5 マークシート方式により解答する場合は、選んだ番号の ○ の中を塗りつぶしなさい。
- 6 解答用紙にマス目（例…


）がある場合は、句読点などもそれぞれ一字と数え、必ず一マスに一字ずつ書きなさい。なお、行の最後のマス目には、文字と句読点などを一緒に置かず、句読点などは次の行の最初のマス目に書き入れなさい。
- 7 終了の合図があったら、すぐに解答をやめなさい。

受 検 番 号									
番									

問一 次の問いに答えなさい。

(ア) 次のa～dの各文中の——線をつけた漢字の読み方として最も適するものを、あとの1～4の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- a 相手を威嚇する。 (1) はいせき 2) せいあつ 3) いかく 4) いかつ )  
b 彼女は鋭敏な神経の持ち主だ。 (1) えいびん 2) しゅんびん 3) えいり 4) しゅんぱつ )  
c この温泉には硫黄が含まれている。 (1) せつかい 2) りゆうき 3) いおう 4) じよう )  
d 主役の座を譲る。 (1) まも 2) ゆず 3) え 4) と )

(イ) 次のa～dの各文中の——線をつけたカタカナを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとの1～4の中から一つずつ選び、その番号を答えなさい。

- a 親戚の会社にシュウシヨクする。  
1 自転車でホンシユウを縦断する。 2 社長が今後のキョシユウを明らかにする。  
3 仏教にはいくつかのシユウハがある。 4 シユウブンの日は祝日と定められている。  
b 海外旅行でケイシヨウの地を訪ねる。  
1 改革案をテイシヨウする。 2 小石でも車体にソンシヨウを与えることがある。  
3 野球部のシユシヨウに任命される。 4 真剣にシヨウブをする。  
c 雷が原因でテイデンする。  
1 路面電車がテイリユウしている。 2 結婚してカテイを築く。  
3 鳥がテイクウを飛行している。 4 剣道部の先生とのシテイ関係を大切にする。  
d 相手に全幅の信頼をヨせる。  
1 大量のザイコを抱える。 2 コサンの社員から指導を受ける。  
3 商売をシンキに始める。 4 高校では寮にキシユクする予定だ。

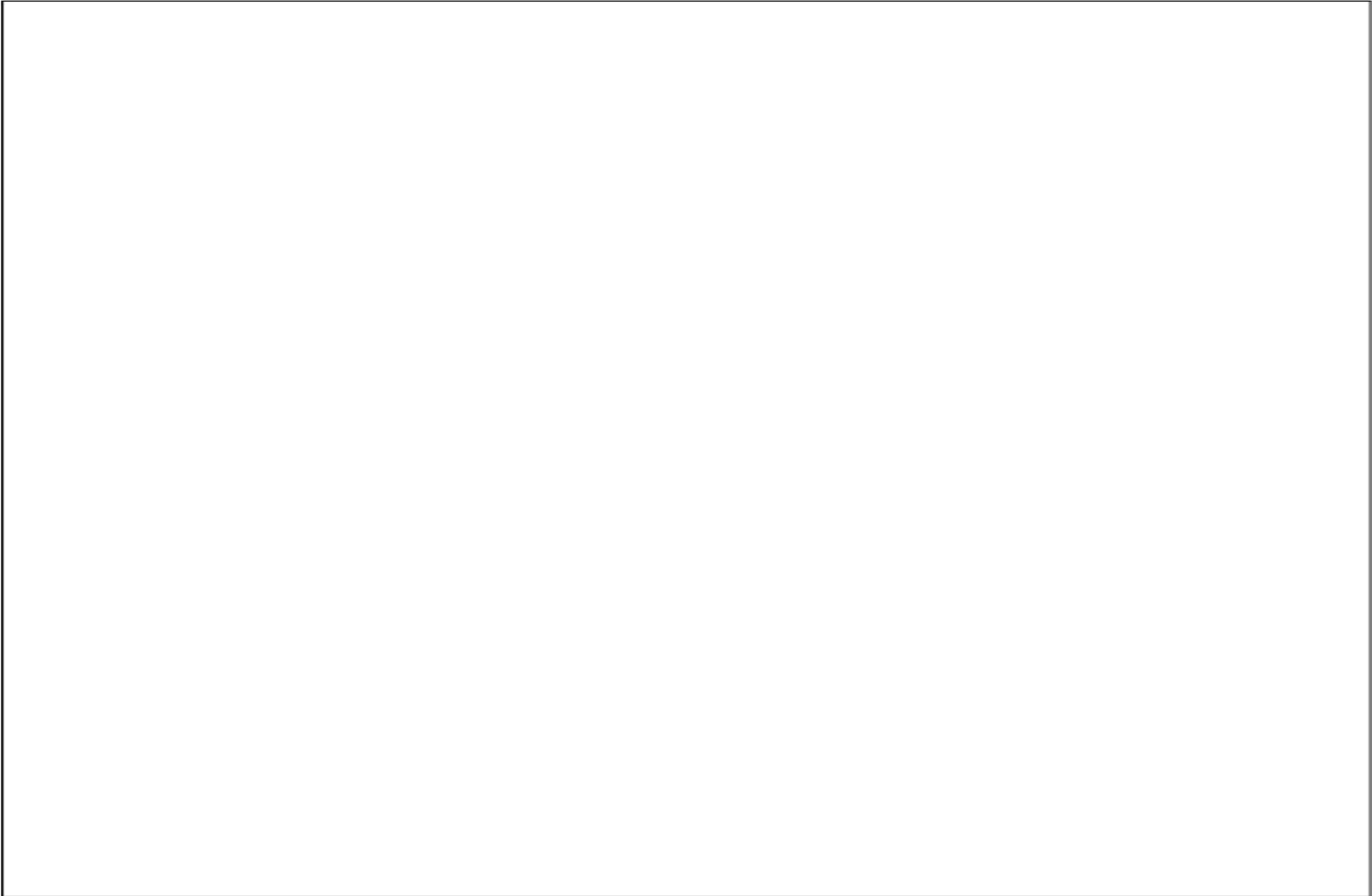
(ウ) 次の短歌を説明したものととして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

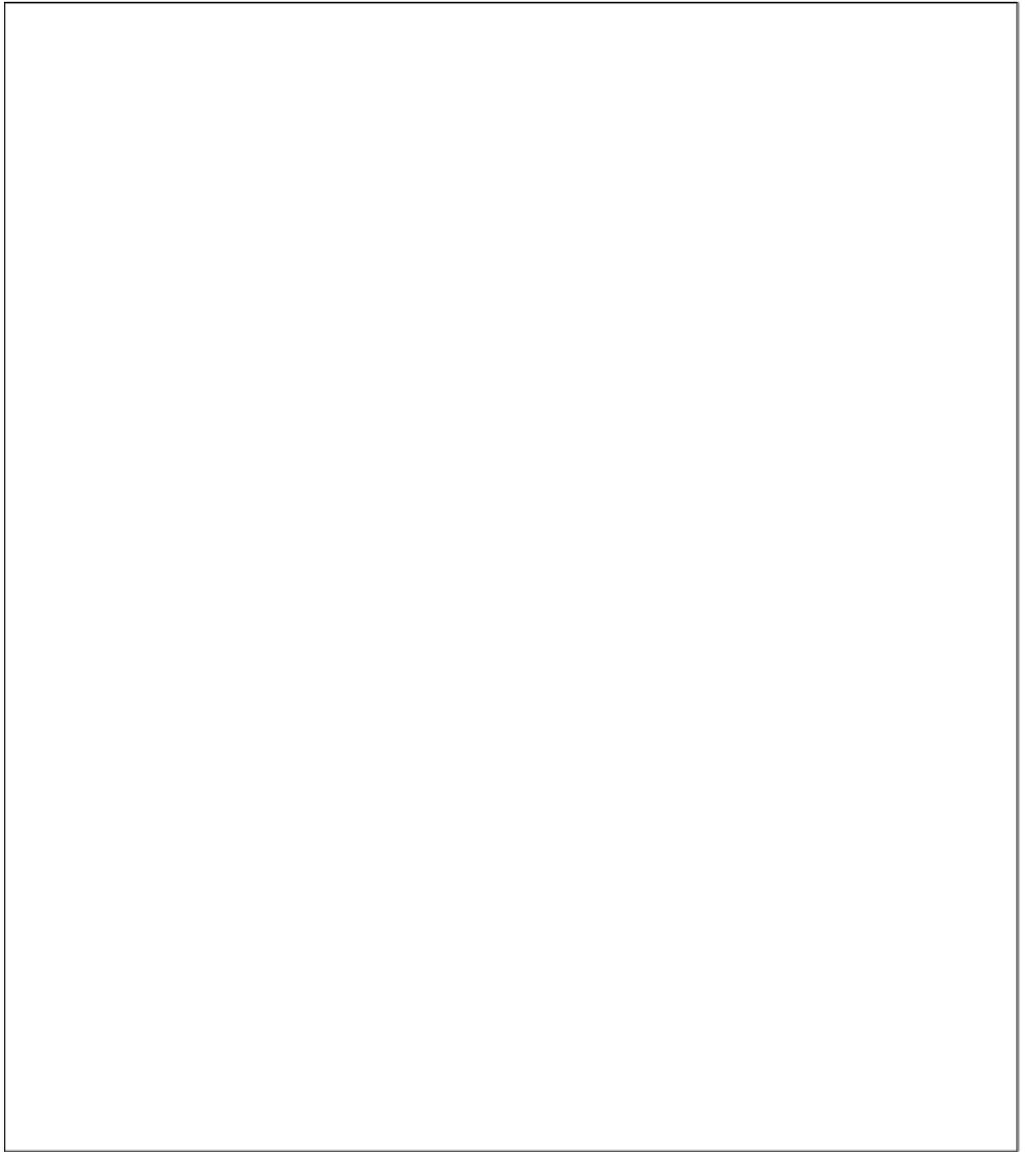
- 1 夕日を浴びて光りながら激しく降る雨を静止画のように描写しつつ、輪を描くように立ち現れた虹が「わが里」を見守っているように感じられたということを、擬態語を用いながら描いている。  
2 夕日がさすなかで光を反射させながら降っている雨の様子をとらえつつ、まるで「わが里」を包み込むように虹が立ち現れたということを、離れたところからの視点を通して雄大に描いている。  
3 夕日の照らす雨がきらきらと輝き続ける様子をとらえつつ、「わが里」から見上げた空にまるで曲線をなぞるように消えていった虹の様子を、擬人法を用いて臨場感を出しながら描いている。  
4 夕日に照らされた雨が光りながら降っている様子を描写しつつ、虹が「わが里」から遠く離れた場所にかかって、世界を祝福しているように感じられたということを壮大な視点で描いている。

ゆうき 結城  
あいそうか 哀草果

問二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ボランテニアで野球の審判をしている「鍋島」<sup>なべしま</sup>は、高校野球の京都予選で、打者の頭にボールを当ててしまった投手に退場処分の判定を言い渡したことを後悔していた。ある日、息子の「健輔」<sup>けんすけ</sup>が事故で怪我をしたと妻から連絡が入った。大学入学を機に野球をやめて家から離れた「健輔」とはしばらく連絡を取っていなかった。入院している病院に急いで向かうと、大きな怪我ではあるものの「健輔」の意識はしっかりしており、一安心した。病室で二人きりになると、「健輔」が「鍋島」に向かって口を開いた。





(木住<sup>きすみ</sup> 鷹人<sup>やうと</sup>「危険球」から。一部表記を改めたところがある。)

(注) オペレッタ⇨歌にセリフを交えた、喜劇的な音楽劇。

アングラ⇨「地下の」の意の「アンダーグラウンド」の略。ここでは実験的な演劇・映画などの芸術運動のこと。

(ア) —線1「俺らしい、か。」とあるが、そのときの「鍋島」を説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 息子がいつの間にか大人になり、父親と対峙していることに戸惑いつつ、突き放すような返答をした息子と向き合うことに困難さを感じ、息子との対話をこれ以上続けることをあきらめている。

2 息子が厳しい態度について指摘してきているように感じたが、大人びた返答をした息子を前にして、今の息子と向き合うことが大切だと気づくと同時に、息子の意外な成長に喜びを覚えている。

3 息子が野球をやめて、自分から離れてしまったことに対して寂しさを感じつつも、今は一人の大人として、父親の判断を尊重してくれているという確証を得られたことに安心している。

4 息子がもう子どもではなく、自分にはうかがい知れない成長をしており、一人の自立した存在として父親と向き合っていることに感慨を覚えるとともに、息子の返答の意味をはかりかねている。

(イ) —線2「なんで、言ってくれなかったんだ。」とあるが、ここでの「鍋島」の気持ちをふまえて、この部分を朗読するとき、どのように読むのがよいか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 野球をやめて演劇の世界に入ってから息子についてだけでなく、自分がわかっていると思ひ込んでいた息子のことも、表面的にしか理解していなかったと気づき、動揺しているように読む。

2 野球より演劇の方に気持ちが向いていたという、自分の知らなかった息子の本当の気持ちを知り、息子と積極的に関わろうとしなかった過去の自分への怒りを、息子にぶつけるように読む。

3 演劇のことを正直に話してくれば受け入れられるという確信があったが、息子が今になって本音を伝えてきたために、責める気持ちが湧いてくるのを自覚し、怒りを抑えているように読む。

4 高校生までの息子が無理に野球を好きであるとよそおっていたことが判明し、二人で共に励んでいた野球が、自分のよく知らない演劇に負けたように感じ、困惑した気持ちを表すように読む。

(ウ) —線3「健輔は穏やかな顔をしていた。」とあるが、そのときの「健輔」を説明したものととして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 当時の自分が未熟だったことに加えて、焦る気持ちがあったために、演劇の世界で生きていくことを認めてくれなかった父親から逃げ出すしかなかったという過去の状況を、冷静に見つめ直している。

2 演劇をやりたいという本音を、父親に打ち明けることすら考えずに逃げた自分の行動を反省しつつも、忙しくても野球を一番に考えて支えてくれた父親の姿に愛情を感じて、和やかな気持ちでいる。

3 自分の本当の夢を、当時の父親が理解してくれようとしていたことを知り、演劇の道に進みたい一心で父親に反発していたことを申し訳なく思いながらも、感情的にならずに過去を受け入れている。

4 野球をしていた自分を支えてくれた父親への感謝の気持ちはありつつも、野球以上に演劇が好きだということについて、父親に言えなかった当時の自分の焦りや未熟さを、落ち着いて振り返っている。

(エ) 線4 「鍋島は妙な気分だった。」とあるが、そのときの「鍋島」を説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 今までなるべく関わらないようにしてきた息子から、父親を一方的に責め続けるような話をされているにもかかわらず、直接思いを伝えてきてくれていることを喜んで自分の身に困惑している。
  - 2 父親の思いを決めつける息子の言いように腹を立てつつも、互いに本音を隠さずぶつ合うことで、親子の共通の思い出が今も二人の関係をつないでいると感じていることを不思議に思っている。
  - 3 自分には受け入れられないような話を息子がしているにもかかわらず、息子に対する心の距離が縮まりつつある上に、息子と話すと自体に心が弾んでいる自分の心のありように戸惑っている。
  - 4 過去の親子関係にこだわっていることを息子から指摘されているにもかかわらず、息子との会話自体を楽しんでいることに加えて、互いが本音で話すことができているという事実に対応している。
- (オ) 「健輔」が「鍋島」に向けたまなざしについての描写によって、「健輔」の内面はどのように表現されているか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 自分の気持ちについては、明確に示したいという意志が表現されている一方で、父親の気持ちについては言葉はなくとも理解している様子を表すことで、大人びた面を持つことが表現されている。
  - 2 父親に自分の隠してきた本音を話すことをためらう様子や、父親の機嫌をうかがうような様子を表すことで、無意識に父親のことを全面的に信頼するような、幼い面を持つことが表現されている。
  - 3 ためらいや父親と向き合う意志を表したり、父親の意外な言動への当惑を表したりすることで、大人びたところもあるが、父親の気持ちをまだ理解できていない面もあることが表現されている。
  - 4 ごまかしや、父親に対する不満を表しながらも、演劇を続けてほしくないという父親の考えに正面から向き合う態度を示すことで、自分の意志を貫こうとする頑固な面もあることが表現されている。
- (カ) この文章について述べたものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。
- 1 「鍋島」が息子の成長した姿と向き合い、息子の考えや演劇のことを完全には理解できないながらも、徐々に息子の人生を肯定的に受け入れられるようになっていく様子を、対話を通して描いている。
  - 2 「鍋島」が演劇の道に進んだ息子の姿に戸惑いつつ、過去のわだかまりを抱え続けたまま、父親としてあるがままの息子を受け入れられるようになっていく姿を、表情の変化を通して描いている。
  - 3 どんな状況でも息子と本音を伝え合ってきた「鍋島」が、父親と対等であるとする息子の姿に頼もしさを感じながらも、変わらず愛情を注いでいこうとする姿を、回想を交えて描いている。
  - 4 息子との対話を望んでいた「鍋島」が、高校生の時期から父親との関係を断ってしまった息子へ懸命に話しかけることで、心が通じるようになっていく様子を、心情描写を中心に描いている。

問三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

(傳田 光洋「境界で踊る生命の哲学」から。一部表記を改めたところがある。)



(注) アインシュタイン⇨ドイツ生まれの理論物理学者(一八七九～一九五五)。

ナラティブモジュール⇨時間の経過や経験を通して変わっていく個人の感覚機能のこと。

ストーリーモジュール⇨時間の経過があっても変わることのない情報を、脳内で表現する機能のこと。

(ア) 本文中の A・B に入れる語の組み合わせとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- |   |   |      |   |        |   |   |     |   |        |
|---|---|------|---|--------|---|---|-----|---|--------|
| 1 | A | そして  | B | 言い換えると | 2 | A | また  | B | 要するに   |
| 3 | A | たとえば | B | その上で   | 4 | A | つまり | B | しかしながら |

(イ) 本文中の~~~~線Ⅰの「で」と同じ意味で用いられている「で」を含む文を、次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- |   |                |   |                 |
|---|----------------|---|-----------------|
| 1 | この機械は電気で動いている。 | 2 | 体育館でスピーチ大会を行う。  |
| 3 | 寒さで手がかじかむ。     | 4 | パソコンの修理は三日でできた。 |

(ウ) 本文中の~~~~線Ⅱの語の対義語として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- |   |    |   |    |   |    |   |    |
|---|----|---|----|---|----|---|----|
| 1 | 理想 | 2 | 真空 | 3 | 皆無 | 4 | 架空 |
|---|----|---|----|---|----|---|----|

(エ) ———線1「言語は世界を認識するためには必要ない。」とあるが、筆者がそのように述べる理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 個人が視覚情報をもとに確立した概念を他者と共有する際は、言語が必要となってくるが、特定のものの境界を描いて概念を確立する過程においては、言語を用いることは不可能であるから。
- 2 個人の中で特定のものの概念を確立するときは、言語によって境界を描くことが主な手段となっているが、世界を認識する段階においては、言語を用いることが必要であるとは限らないから。
- 3 人間が特定のものの概念を個人で確立するにあたっては、主に視覚情報を用いて境界を描いており、確立した概念を言語化することなく他者と共有することで、世界認識を可能にしているから。
- 4 個人が特定のものと他のものとを区別し、境界を描くことによって概念を確立する際は、視覚情報を主とした多くの情報を手がかりにしており、必ずしも言語を用いているわけではないから。

(オ) ———線2「その抽象的な概念、抽象的な場の中で、現実の時間、空間から離れて一種のシミュレーションができ、それが、現実世界でも役に立つ予言ができることだ。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 具体的な事象にとらわれずに、言語を用いて模範的に思考した結果を検証することによって、それまで解析されていなかったようなことを、現実在即して予言できるようになったということ。
- 2 他者とともに言語を使用するという模範的な思考を始めたことによって、世界を解析する道具として、言語を進化させられるようになった結果、未来の予言ができるようになったということ。
- 3 現実の具体的な事象を言語を使ってとらえることによって、目の前のあらゆる事象を正確に記述できるようになった結果、これから起こる事象を、模範的に予言できるようになったということ。
- 4 抽象的な世界を個人が解析する手段として成立した言語を使い、模範的な思考をくり返すことで、具体化されていないような事象について、現実役に役立つ予言ができるようになったということ。

(カ) 線3 「数学は特異な発展を示した。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

- 1 数学は抽象的な概念で成立しており、限られた人数の数学者でも十分な成果を出すことが可能になったことで、短期間のうちに目に見えない世界の本質に高い精度で踏み込んできたということ。
- 2 数学は抽象度のきわめて高い事象を扱えるため、言葉や時代の違いを超えてシミュレーション結果の共有が可能となり、抽象的なシステムで成り立つ世界のしくみの本質に迫ってきたということ。
- 3 数学は目に見える範囲のみを記述することで発展してきており、境界に由来する世界を議論するために長期間使われてきたことで精度が向上し、抽象的な概念の理解に近づいてきたということ。

4 数学は非常に抽象的な概念を用いており、言語の違いや時代を超えて高い精度での世界のシミュレーションができ、目に見えている世界のより明確な理解につながるようになってきたということ。

(キ) 線4 「言語というものは抽象化プロセスの一つの表れであって、個人の創造、あるいは科学的な発見も、言語に先立って存在すると考えられる。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 世界の事象を表現して共有する際は言語が必要になるが、言語で抽象化されるより前に、既存のものを抽象化することで、創造したり発見したりする段階がやってくると言えらるだろうということ。

2 人間は創造力で科学的な発見や未来の予見を成し遂げてきており、言語が事象を抽象化するより前から、具体的な言語情報を用いて、創造や科学的発見がなされてきたと言えらるだろうということ。

3 抽象化の一形態である言語は、既存の物事を情報として扱う際に使用されており、既存のものではない創造や発見は、言語による抽象化がなされるより前に存在していると言えらるだろうということ。

4 言語情報は既存のものではないとされるものであり、発見を他者と共有する際に使われてきた一方で、創造や発見は言語に先立って、既存ではないものを生み出していると言えらるだろうということ。

(ク) 筆者は本文を通して、「意識」についてどのように述べているか。最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 概念の確立の過程では、言語化が必要とは限らないとされているものがある一方、創造の場を通して考えると、言語化によって世界を把握できるという勘違いを生むということがわかるものもある。

2 言語によって表象されることを通して、世界を把握できるものであるが、創造の場においては言語化されないままで扱われており、他者との共有をすることが不可能であるとされているものもある。

3 言語を通して世界を表象する際に必要とされるものであり、特に既存ではないものを創造する場合には、言語で語られるものを用いるべきとされ、言語化に際して制約があるとされるものもある。

4 言語と同様に抽象的な事象をそのままの状態で表象する場面で機能するものであり、言語を通して他者と共有されうるものであるがゆえに、人間の創造力と深い関わりがあるとされるものもある。

(ケ) 本文について説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 言語の働きが脳の機能の一部にすぎないことを指摘し、言語や数学的な方法によって世界を把握することの危険性について述べながら、人間の高慢さが言語や数学を生み出したことを批判している。

2 人間の言語能力の発達によって高慢さが生み出されていく過程を述べつつ、世界の把握には言語が不可欠であると主張する一方で、創造においては言語的解析が不十分であると警鐘を鳴らしている。

3 世界を認識する際の境界の役割について具体例を挙げて示しながら、数学を含む言語や人間の特徴について論じた上で、言語の有効性が人間の高慢さを生み出したということを批判的に述べている。

4 境界を描く能力について言語と非言語の両面から分析し、言語的な側面を持つ数学だけが世界を把握できると主張した上で、言語に関わる脳の機能が人間の高慢さを生み出したと主張している。

問四 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

望遠鏡とほめがねといふ物、異国より渡り始めける頃、世よにこそつて弄あそばる。権現様ごんげんより紀伊きい大納言殿だいなごんへ御目に

掛けらる。大納言殿だいなごんことのほか御喜びにて、御国元ごくにんの櫓やぐらへ御上お上がり、所々御覧ごらんになられ、御秘蔵ごひざん浅あからず、

折節くわわ曲輪まがわの外、はるかの向かふを御家の士おののし通りけるを眼鏡めがねにて御覧ごらんじ、その人の着くる紋もんまでもありあり

と見え、顔も明らかに見えければ、御機嫌ごきげんななめならず、<sup>1</sup>「誰彼たれがも見よ。」とて、興きじたまひける。その夜

家臣あひどうたて安藤あんと帯刀たてはき出仕でし有りしに、この眼鏡めがねのこと御話ごわ有りて、帯刀たてはきに見せたまひけるに、帯刀たてはき何とも御答ごたへは

これ無く、その眼鏡めがねを申し受け携たづへ出いでて鎗やりの間まの敷居ふきいに打ち付け、打ち砕くだきて退出でしゅせらる。

大納言殿だいなごんこれをお聞きになられ、御小姓ごせう兩人にんに仰おほせ付けられ、<sup>2</sup>「帯刀たてはき心付こころづかざる様に、あとより付きて

参る様子を見さうらへ。」とのこと故、御指図ごさしずのごとくしければ、帯刀たてはきは直ちに宿所しゆくじよへ帰り、そこにて小

姓衆せいしゆを見つけて申せられるは、「殿おのは各おのを御付けやられさうらふ。眼鏡めがねと申す物は、敵の陣場ちんば、あるい

は船中ふねちゆうなど御覧ごらんず。又は御慰ごゐみならば森林しんりん遠山えんざんなどを御覧ごらんさうらひ得ば御重宝ごじゆうぼうのことなり。総すべじて万物共

に用ひ様により、よき物も悪あしくなり申しさうらふ。今夜御話ごんやごわのごとく、御城下ごじやうをたえず目の下に御覧ごらんこ

れ有りては、<sup>3</sup>もつてのほかなる害がいにさうらふ。その所以ゆゑんは、太守たうしゆたる人の櫓やぐらに登りて城下じやうの様子直ちに御

覧らんと承らば、下々の者かの道を通りかね申すべし。さしあたりこればかりも下の煩わづひにさうらふ。その上、

下々には常々じやうじやう不ふ作法さくぱ多く、酒興しゆきやうなどには色々しよくしよく異形いけいのこともこれ有り。それをもつて気を養やしなひ申しさうらふ。

これ一つは御奉公ごほうこうのためにさうらふ。かく申す某それがしなども陰の暮くれらしを御覧ごらんになられさうらはば、御あきれ

なるるべし。その他にも、御見限りごみんぎりに逢あひさうらふ者多く出で来つかまつるべくさうらふ。異国の聖主せいしゆ賢

主は、下のことを直ちに見聞みきこかじとて、冠かむりに目簾めすだれを下くだげ左右さゆうに耳金みみかねをつりたまふと承うる。一国をも治めた

まふ君は、御了見ごりやうけん有るべきことにさうらふ。」と申し上げらる。

大納言殿御若輩ごにやくわんとは申せども、さすが名譽なごの君にて、この諫いさめをお聞きの後のちは、望遠鏡とほめがねのこと、再びお

詞ことばにも出だされずとかや。

〔感入録かんにゅうろく〕から。〕

(注) 権現ごんげん 〓 ここでは、徳川家康とくがわいえいさく (一五四二～一六一六) のこと。

紀伊大納言きいだいなごん 〓 ここでは、徳川頼宣とくがわのりのぶ (一六〇二～一六七二) のこと。権現の子。

曲輪まがわ 〓 城やとりでの周囲に築いた土や石の囲い。

安藤帯刀あんとどうたてはき 〓 安藤直次あんとしち (一五五四～一六三五) のこと。紀伊大納言に仕えた。

鎗の間やりま 〓 金属製のやりが飾つてある部屋。 太守たうしゆ 〓 一国の領主。

目簾めすだれ 〓 目を覆うすだれ。 耳金みみかね 〓 金属製の耳飾り。

(ア) 線1 「『誰彼も見よ。』とて、興じたまひける。」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「大納言殿」は、はるか遠くを通った家来の着ていた服の家紋や顔の様子までも、望遠鏡によってはつきり見えたことに喜んで、周囲の者にも望遠鏡を使ってみるように勧めている。

2 「大納言殿」は、城の外を行き来する家来の生活までもが、世間で評判の望遠鏡でありありと見えることへの不安をごまかすために、はしゃいだ様子で家来に望遠鏡を押しつけている。

3 「大納言殿」は、高所での見張りに望遠鏡を用いることによって、遠くの敵陣の様子や敵の服の家紋までもが鮮明に見えたことに興奮し、家来にも望遠鏡をのぞかせようとしている。

4 「大納言殿」は、望遠鏡を使用しても、遠くを歩いている人物の表情や詳しい服の模様まではわからないことに落胆したが、代わりに望遠鏡で周囲にいる家来の顔を見て喜んでいいる。

(イ) 線2 「御小姓兩人に仰せ付けられ」とあるが、それを説明したものとして最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 気に入っている望遠鏡を突然奪い取って壊した「帯刀」の行為に腹を立てて、「大納言殿」が、仕えの者二名にあとを付けさせて、「帯刀」を見つけ次第その場で処罰を与えようとしている。

2 望遠鏡に関する話を聞いた上で望遠鏡を受け取り打ち壊したという「帯刀」の行為に対して、「大納言殿」が、仕えの者二名に「帯刀」のあとを付けさせて、行為の意図を探ろうとしている。

3 「大納言殿」は、部屋に入ってくるなり周りの者たちに望遠鏡を壊させた「帯刀」の真意を知りたいと思ひ、仕えの者二名に「帯刀」の様子を探らせた上で、話を聞き出そうとしている。

4 「大納言殿」は、「帯刀」が何も言わずに望遠鏡を壊したという行為の意図を聞き出したいと思ひ、「帯刀」が容易に気づけるように仕えの者二名を送り、その場で話を聞こうとしている。

(ウ) 線3 「もつてのほかなる害にさうらふ。」とあるが、「帯刀」がそのように言った理由として最も適するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 望遠鏡を使い城下の様子を見ようとすると、家来が城下の道を避けるようになることによつて、君主が家来の様子を正しく把握しようとしても、かえって知ることができなくなると考えたから。

2 監視するかのよう望遠鏡を使うと、家来にとっては城下の道を通りづらくなり迷惑であるだけでなく、奉公のための息抜きでもある行為を君主にあきらめられて、見捨てられることにつながるから。

3 家来の隠してきた君主に対する無礼なふるまいが、望遠鏡によって露見することで君主の怒りにふれ、行為への厳しい措置がとられることにつながり、奉公をしようという家来の気持ちが薄れるから。

4 望遠鏡を、家来の様子の観察のために使うようになると、家来のあきらめるような行為ばかりに君主の目が向いてしまい、敵の監視や気休めといった望遠鏡の本来の使い方が軽んじられると考えたから。

(エ) 本文の内容と一致するものを次の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

1 「大納言殿」は、家来の生活や望遠鏡に興味を持ちながらも、「帯刀」の厳しい忠告を受けてからは家来の話題を控えるような、周囲の者たちとの調和を重視する繊細な心を持った人物であった。

2 「大納言殿」は、「帯刀」の優れた君主に関する例え話が意味するところを理解できずに、望遠鏡の使用の禁止を言い渡されるといった、好奇心旺盛ではあるが未成熟な部分もある人物であった。

3 「大納言殿」は、家来である「帯刀」の過激な行為を伴う理不尽な訴えにも積極的に耳を傾けて、家来全員に望遠鏡の使用を禁止する命令を出すような、行動力がある上に真面目な人物であった。

4 「大納言殿」は、「帯刀」の一見すると理不尽に感じられる行為の真意を誠実に受け止めて、望遠鏡の話題を出さなくなるような、若いながらも国のことを考えられる柔軟で賢明な人物であった。

問五 中学生のKさんは、「人間の進歩」について興味を持っている。調べるなかで、人間の認識や思考の仕方が「人間の進歩」と関係しているのではないかと考え、二つの文章を読んでいる。次の【文章1】、【文章2】は、そのときのものである。これらについてあとの問いに答えなさい。

【文章1】

(安藤 昭子「問いの編集力」から。一部表記を改めたところがある。)

【文章2】

(注) ペンディング事柄がまだ決まっていない状態にあること。保留。  
(内田 樹「知性について」から。一部表記を改めたところがある。)

- (ア) Kさんは【文章1】と【文章2】を読んで、内容を次のようにまとめた。【Kさんのメモ】中の  
 I・IIに入れる語句の組み合わせとして最も適するものを、あとの1〜4の中から一つ  
 選び、その番号を答えなさい。

【Kさんのメモ】	
<p>【文章1】</p> <p>○人間の認識の仕方についての具体例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の顔の例……部分から全体へ注意を払う。</li> <li>・ピアニスト、アスリート、ムカデのダンスの例</li> <li>……部分に注意を払うと、全体の統合が揺らぐ</li> <li>……部分に注意を払うと、全体の統合が揺らぐ</li> <li>……部分に注意を払うと、全体の統合が揺らぐ</li> <li>……部分に注意を払うと、全体の統合が揺らぐ</li> </ul> <p>○人間の認識について</p> <p>……明示的に認識されない領域が、I。</p>	<p>【文章2】</p> <p>○人間の思考の仕方についての具体例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>……「神」というのは、人知を超えた存在</li> <li>であるため、II。</li> </ul> <p>○人間の思考について</p> <p>……人間は、それが何を意味するのかわからない概念を用いて、思考をし続けることができる。</p>

- 1 I 統合の揺らぎの原因となる II 人間が創り出した概念に回収すべきである
- 2 I 全体的な情報の統合を手助けする II 人間は神という概念について考えられない
- 3 I 直観や不意の確証の源泉になっている II 人間には定義を一つに定めることはできない
- 4 I 部分的な特徴を明確にする II 確定的な定義づけは不可能である
- (イ) Kさんは【文章1】と【文章2】を読んで考えたことを次のようにまとめた。【Kさんのまとめ】中の  
 ……に適用することばを、あとの①〜④の条件を満たして書きなさい。

【Kさんのまとめ】

まず【文章1】を読んで、人間が情報を認識するときのことを学んだ。人間が物事を認識する際は、部分の特徴を明確化しなくとも、情報を全体として認識できる場合もあると述べられていた。つまり、人間には、はっきりとは捉えているわけではないものを、おおまかなものとしてそのまま認識できる側面があるということだろう。

次に、人間がどのように思考するのかについて知りたいと思い、【文章2】を読んだ。【文章2】には、何を意味するかわからない概念を用いて思考する際の人間の特徴について書かれていた。人間は、意味がはっきりと一つに定まっていない概念を用いる際に、その概念の意味を一つに定めずに保留したままの状態で、ある程度の時間にわたり思考し続けることができるということである。

ここまで、人間の認識や思考の仕方について学んできて、はっきりとは捉えていないものについてどのように扱っているのかという点に、人間の特徴が表れているのではないかとすることに気づいた。この特徴は、「人間の進歩」と関わりがあるのかもしれない。

以上を踏まえると、人間は、はっきりとは捉えていないものについて、……という特徴を持つといえる。次は、「人間の進歩」について、違う観点からも考えていきたい。

- ① 書き出しの人間は、はっきりとは捉えていないものについて、……という語句に続けて書き、文末の  
 ……という特徴を持つといえる。……という語句につながる一文となるように書くこと。
- ② 書き出しと文末の語句の間の文字数が三十字以上四十字以内となるように書くこと。
- ③ 【文章1】と【文章2】の内容に触れていること。
- ④ 「暗黙」「決定」という二つの語句を、どちらもそのまま用いること。

(問題は、これで終わりです。)

